

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2773801085		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい		
所在地	羽曳野市島泉4-3-18		
自己評価作成日	平成 24年 5月 10日	評価結果市町村受理日	平成 24年 7月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2773801085&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2773801085&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 5月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的(家族的)な雰囲気大切に、入居者様にとってやすらぎのある我が家となるようなホーム作り。</li> <li>・三位一体(入居者様、家族様、職員)でのホーム作り。</li> <li>・地域密着型サービスとして、地域とのつながりを大切に、家族介護教室の開催や地域の方々との交流を通じ地域に根付くホーム作り。</li> <li>・市内のほかホームとの交流を通じ、合同での介護フォーラムの開催やこころあい通信の発行等、認知症や高齢者介護に関する情報を提供し、地域貢献ができるホーム作り。</li> <li>・単独でのホーム運営に留まらず、同法人内の各グループホームとの協力体制を構築し、サービス提供の質向上を図れるホーム作り。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「認知症の方に納得した介護を提供したい」と、住宅街にある代表者の自宅を改修して開設したグループホームで、8年目を迎えます。開設1年後に敷地内に増築し、2ユニット目ができました。それを機会に職員は新しい理念を定め、利用者一人ひとりの「その人らしい安心ある暮らし」を大切に、管理者は利用者・職員にとっても我が家のような家庭的な雰囲気の中での日々の暮らしを目指しています。ホームのすぐ裏手にある小学校の校庭からは、元気な子どもたちの声が聴こえる環境にあり、金網のフェンス越しに児童との交流が生まれています。管理者、職員が協力してホーム独自の各種の記録書式を作成し、「地域密着型サービス計画書」に連動した「介護サービスチェック表」をはじめ、一覧できる個別の実践記録は、記入が簡単で読み取りやすい工夫し、職員は利用者へのケアを共有することができます。チームワークの良い職員が利用者に対し、優しく丁寧に接し、利用者は思い思いに落ち着いた明るい表情で過ごしています。利用者の様子が分かる写真を添付した、個人別の「こころあい便り」を送付し、家族に喜ばれています。管理者・職員は地域の人たちとも「共に歩いていきたい」と願い、地域との交流を大切にしています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>            地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当ホームの理念「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を、ホーム内 数か所に掲示し、理念に託した思いも含め、職員間はもちろん、地域の福祉委員、家族様とも共有し実践に向け日々取り組んでいる。家族様への毎月のお便りにも掲載し、地域の住民やホームに関わる全ての人々が心豊かに安心ある生活を送れるようにと取り組んでいる。</p>	<p>開設1年目に2ユニットに増床した際に、職員で理念を見直しました。「心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で 共に歩む」を新たな理念と定め、地域密着型の事業所として、利用者・家族・職員・地域の人たちとも関わるすべての人たちとも共に歩んでいきたいとの思いを込めています。利用者・家族や訪問者にも、ホームの思いを心に留めてもらえるよう、玄関壁面はじめ、リビングや廊下壁面・エレベータ内にも優しいイラストを添えて掲示しています。職員は理念を共有し、日々のケアを実践しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員との花見や花火、小学校との交流会、運動会の見学、中学生の職場体験受入、散歩、なじみの店への買い物等、地域住民との交流を大切にし、地域の一員として繋がりをもてるよう、理念に掲げる「その人らしい」を大切にしている。地域住民の方々に避難訓練にも参加して頂き、外出行事にも同行して頂く等の交流の機会を大切にしている。また、AEDの設置、こころあい通信の発行等を通じ、地域に役立てるよう取り組んでいる。	町内自治会には利用者ひとり一人の名義で加入しています。自治会や地域の情報を得て、盆踊りや近所の清掃活動にも参加し、日常的に近隣住民の方々と挨拶を交わします。地域の福祉委員や介護相談員の方々にはお花見に同行してもらったり、ホームの花火大会開催時にも協力を得ています。金網のフェンスを隔てて校庭のある小学校の児童との交流があり、運動会の応援や3年生との交流会にも参加します。中学生の体験学習を受け入れ、2日間の実習の後も時々訪問があり、交流が続いています。大正琴・三味線・ピアノの演奏や民謡・コーラス等のボランティアの訪問もあります。AED(自動体外式除細動器)を設置しており、玄関には設置看板を出して近隣住民にお知らせしています。年に3回ホームの季刊紙「こころあい通信」を発行し、自治会にもホームの活動を知らせています。地域住民や利用者家族対象に認知症に関する知識等を伝える「介護者教室」を開催しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室、介護フォーラム、キャラバンメイト養成講座、こころあい通信を通じ認知症や高齢者の介護に関する情報提供や、相談会を行っている。また、地域住民との交流を通じ、認知症高齢者への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の近況報告、当ホームの取り組み、行事報告、家族様からの意見や要望等を報告し、参加者からの意見を頂き、サービス内容向上に活かせるよう取り組んでいる。また、ヒヤリハットや事故報告等のホームの課題を報告し、意見を頂戴し新たな取り組みに繋げている。会議等で頂いた意見は、全体会議を通じ全職員に報告し、新たな取り組みやホームの運営に活かしている。	運営推進会議は利用者家族・地域福祉委員・高生クラブ会長・介護相談員・地域包括支援センター職員の参加を得て、2カ月に1回開催しています。ホームの生活状況や新利用者の紹介、事故報告等を行い、行事への取り組みについての報告・職員体制についても報告を行います。参加者から、質問・意見を伺い、避難訓練の感想と協力の申し出を受けています。お花見等の外出行事へのサポートの申し出も受けました。	運営推進会議の運営規程に「守秘義務」の項を追加することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的な運営推進会議、GH部会やキャラバンメイト養成講座をとおしては基より、日常においても相談や問題（苦情・事故）が生じた場合は、必ず連絡し助言を頂きながら、協力関係の構築に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当課とは運営推進会議議事録の提出、外部評価結果報告、事故報告書等の提出やショートステイ利用等、日常的にも相談ができる関係作りができています。福祉総務課担当者の訪問もあり、情報交換ができます。グループホーム連絡部会には市の担当課職員の参加を得ています。市の委託を受けて「家族介護者教室」・「キャラバンメイト養成講座」を公民館で開催しています。市内のグループホーム事業所が合同で開催する「介護フォーラム」を支援してもらいます。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の研修（勉強会）や外部研修への参加をとおし、身体拘束に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、家族会の希望と建物の構造上施錠を行っているが、入居者様の希望があれば随時職員が同行し戸外へ出て頂いている。</p>	<p>職員には全体会議の時に勉強会を実施し、「身体拘束をしないケア」に取り組んでいます。玄関は電子キーになっており、番号を表示してあります。開錠できる利用者もいますが、利用者が外出を希望する場合には、閉塞感を与えないよう、様子を見ながら職員が同行します。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム内の研修(勉強会)や外部研修への参加をとおり、虐待防止に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、虐待防止に取り組んでいる。また、些細なことも日見逃さないよう日々の観察を怠らず、記録に残し共有の徹底を図っている。また、管理者、両棟主任が役割分担し定期的なヒヤリングを行うことで、業務に関する改善や職員のストレスの軽減に努め、虐待防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者家族様には伝えているが、現在利用している人はいない。必要時に活用できる様に、ホーム内の研修(勉強会)を通じ理解を深めるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、その後の紛争を未然に防ぐ意味合いにおいても専門的な用語を使わず、時間をかけ項目ごとに詳しく分かり易く説明するように心がけ、ホーム側からも不安や疑問点を項目ごとに尋ね、十分な説明、理解・納得を図るよう心掛けている。また契約時以外においても、利用料等の改定の際には、そのつど全家族様へ十分な説明を行うよう心がけ、理解・納得を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で、入居者様の意見や要望等はコミュニケーションを通じ確認するように努めている。また、家族様等には来所時は基より、家族会、運営推進会議、アンケートなどを通じ意見を頂き、些細なことでも言い易い環境づくりを心掛けている。民生委員の窓口や大阪府社会福祉協議会の苦情相談窓口の案内を玄関に掲示、ホーム内でも苦情相談窓口を設け随時受け付け、ホームの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。	家族の来訪時に、利用者の様子を報告し、要望や意見を伺います。また、体調等に変化のある場合等には随時報告し、その都度利用者や家族の要望等を聴くようにしています。また、居室担当者は、毎月利用者の1ヵ月間の暮らしの様子や活動を写真と共にお知らせする「こころあい便り」を送ります。玄関にはご意見箱を設置していますが、今のところご意見・苦情は入っていません。家族会を年2回開催し、家族同士の交流の機会にしています。月に1回介護相談員の訪問があります。ホーム内だけでなく、お花見には介護相談員も参加してもらい、利用者・家族と多くの会話ができる機会になりました。家族にアンケートをとり、要望や意見を聞いてホームの運営に反映するようにしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談、アンケートを通じ職員の意見を把握、定例会議にて報告・共有し、反映させている。日常も毎月の定例会議やカンファにおいて意見を述べる機会を作り、運営に反映させている。また、職員の意見や提案について、管理者は法人内の運営会議にて、代表者、取締役、同法人内の他事業所管理者等に報告し運営に反映させている。	毎月、夜勤者を除いて職員全員が参加し、全体会議を開催しています。毎月の業務や行事の実施報告及び、行事予定を検討しています。利用者のカンファレンスも行い、職員は意見や提案を行います。また、管理者は日常的には、毎朝の申し送り時にも職員からの意見を聴く機会にしています。職員からは介護者教室や勉強会のテーマ等についてのアンケートを提出してもらいます。また、年2回は個別面談を実施し、意見を聴く機会を設けています。管理者は、法人内の運営会議で、必要に応じてホームの運営に反映させる提案を行っています。管理者は、職員に外部研修への参加や資格取得等、レベルアップすることを支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表作成にあたり、事前に希望休暇を3日間訊いており、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整備している。また、やりがいや向上心を持ってもらえるように、仕事への動機付けを説明し、自発性に結び付くようにとティーチングやコーチングに努め、職員個々が目標を達成できるよう環境・条件の整備に努めている。代表者がホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告を通して代表者は把握に努めている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者がホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告を通して代表者は把握に努めている。毎月、定例会議での勉強会をはじめ、同法人内での交換研修や、同法人内の新規事業所立ち上げに伴う新職員の研修受け入れや新入職員への伴走によるトレーニングにも取り組んでいる。また、外部研修に関する情報を職員間で回覧し、参加後に得た情報も共有している。働きながらの資格取得に関しても、シフトや金銭面での応援制度を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域独自のネットワーク「みやびネット」に参画し、ネットワークづくりに取り組んでいる。法人内他施設との交換研修や、その他、市のGH部会、介護フォーラム、グループホーム交流会、計画作成の集い、キャラバンメイト養成講座等への参加・交流をつうじ、勉強会や情報交換・共有を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>各入居者様の、個別のニーズを聞き出すよう心掛けている。まず本人様の話を傾聴し、思いを受け止め安心して生活して頂けるよう努め、会話が困難な場合も、表情やしぐさ等から思いを受け止めるよう努めている。また、月に1度市町村からの介護相談員の訪問も活用している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は基より、来訪時や、年2回の家族会開催時等、個別に家族様のニーズを聞き出すよう心がけ、一日でも早く、相互が信頼しあえる関係の構築に努めている。日常でも電話やこころあい便りを通じ、常に些細なことでも報告し、家族様側からも些細なことでも話して頂けるよう働きかけている。常日頃から、家族様等の思いや要望等を話し易い環境作りを全職員で心がけ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や家族様とのコミュニケーションを重視し、要望を聴きニーズを理解することで、必要な支援に対し他のサービス利用も含めた情報を提供し対応に努めている。また、ご本人様や家族様がその時に必要とされているサービスの提案と説明を行い、同意して頂いたサービスについては職員間で共有し、対応と実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様と共に生活しているという考えの下、入居者様の主体的な生活を支えるという立場で、掃除、洗濯、調理、買い物等の役割を持って生活して頂けるよう支援に努めている。また、他者様との良好な関係や、入居者様と職員が助け合い、支え合う関係を構築し「共に歩む」楽しさや喜びを日々大切にし、日頃から感謝の気持ちを伝え、信頼関係構築に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>こころあい便りをはじめ、来訪時や電話等で家族様に対し、本人様の情報・状況を良い事も悪い事も隠さず報告することで、常に職員と同じ情報を共有して頂き、家族様にも一緒に考えて頂き、意見を取り入れている。ご本人様と家族様との関係を大切に考え、共にご本人様を支えていける関係の構築に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>            本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>理念でもある「その人らしい」を大切に考え、人間関係の保持を重要視し、本人様の思い出の場所や入居前のなじみの店に買い物に行く機会、また家族様との絆は基より、入居前のなじみの人との交流の機会も遮断されることが無いよう、地域へ出ていく事で地域の方との関わりを継続できるよう支援に努めている。また、ご本人にとって大切にしている思い出等の記憶が途切れないように日頃の会話においても、意識した関わり・支援に努めている。</p>	<p>入居時に家族から、本人の生活歴や交友歴等を聴き取り、記録しています。利用者の馴染みの人や関係が途切れないよう支援しています。入居以前から利用していた馴染みの店に今も日用品やおやつ等を買に行けるよう支援しています。入居以前の自宅の近隣の方がホームを訪ねて来られた場合には、職員も見守り交流の継続を図ります。馴染みの方へ年賀状を出せるよう支援しています。必ず利用者にも年賀状が届くよう、居室担当者は利用者宛てに年賀状を出しています。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>            利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様個々人の性格等に配慮し、入居者様同志の相性も踏まえ、良好な関係を構築・保持できるよう、落ち着いた居場所を確保し、コミュニケーションの困難な入居者様も職員が介入する等して孤立することなく、良好な関係を築けるよう支援に努めている。またリクリエーションや日々の役割の中で入居者様同士が互いに協力し支え合えるよう支援に努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も出会ったご縁を大切に、必要に応じて、家族様からのご意見・相談を受けることが出来るよう支援に努めている。また、入居中のアルバムを作成し、職員や他入居者様からのメッセージを添え、いつでも来所して頂けるようにとお声を掛け、関係性を維持できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察を徹底し、本人様の希望を聴くことはもちろん、言葉にならない思いを組み取れるように努め、職員間でのカンファレンスをはじめ、家族様からも情報を収集し、全職員間で共有、検討することで本人様本位であるよう努めている。	利用者の基本情報やアセスメントシートを職員は共有しています。入居後には、家族から得た情報や、日々利用者との関わりの中で得た希望や思いは日々の介護記録や申し送りノート記録し、職員は情報を共有します。家族宛てには「介護計画変更に関するお知らせとお願い」の用紙に、ホームでの生活に対する意向を書いてもらいます。計画作成担当者は、利用者本人や家族の思いを介護計画に繋げ、安心して過ごしていただけるよう利用者の思いに沿った計画に反映させています。「生まれ故郷の清流の鮎が食べたい」との思いを受け止めて、家族の協力を取り寄せた事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、家族様の情報等からこれまでの生活背景の把握に努め、他施設からの入居、他サービスの利用等に関しては、介護支援専門員等から情報を収集し把握に努めている。また、可能な限りではあるが、日常の中でも本人様からのお話を聴かせて頂く事で、出来るだけ以前の生活に近づけるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去・現在の病歴を把握し、日々の様子観察や職員からの申し送り、カードックスの把握、バイタル・行動・表情の変化を確認しながら、心身状態の把握に努め、全職員間をはじめ家族様とも共有を図っている。また、入居者様の有する能力の把握は基より、新たな可能性を見出させるように努め職員側の支援で閉ざされてしまうことがない様に配慮している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月の定例カンファレンスの際のモニタリングや、3カ月毎の居室担当によるモニタリング等から、課題・ニーズの修正・変更の有無確認を行った上で、現在6か月毎に、ケアプランの見直し・更新を行っている。また、体調変化や入・退院時等には、随時(本人様の状況に応じ、連携医の見解をもとに、家族様の意向をふまえ)新しい介護計画書に反映させるようにしている。</p>	<p>入居時の情報を基に、地域密着型サービス計画書を作成します。日々の介護記録等とは別に、入居後1ヵ月間はADL(日常生活動作)について「初期行動観察表」に記録します。また、サービス計画書の短期目標の内容を項目別に1ヵ月間の「個別介護サービスチェック表」に転記し、介護記録と共に、毎日のサービス実施状況を把握しています。居室担当職員はモニタリングを行い、必要に応じて毎月の全体会議時にカンファレンスを実施します。基本的には6か月毎に介護計画の見直しを行います。介護計画書は利用者・家族に確認してもらうために、各居室に「地域密着型サービス計画表」のファイルを置き、訪問した家族の署名を得ています。サービス計画の実施状況を家族に確認してもらうために、日々の介護記録にも目を通してもらい、「家族様確認票」にもサインを得ています。利用者の体調変化や退院時等には期間内でもサービス担当者会議を開催し、随時介護計画の見直しを行います。職員は各記録には日々目を通し、利用者の状況を全員が共有できる体制を取っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子や言動、表情をありのまま記録し、日々の申し送り等を含め情報共有を行っている。また、介護計画をふまえた上で、気づきや、変化等もカンファレンスで情報交換し、見直しや日々のケアの実践に反映させるようにしている。また、介護サービスチェック表を、介護記録と一対として記入することで個別の介護計画が実践できているかをチェックし、結果を踏まえ介護計画の更新時に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは「居住系」の性質上、同じ地域密着型の小規模多機能と異なる部分があり、多機能化という視点では難しいように思えるが、家族様等にも協力を仰ぎ、本人様の希望に叶うよう取り組んでいる。また、面会(好きな時間での)・外出(選挙・墓参り等)・外泊(旅行等)・居室への家族様の宿泊等のニーズにも添うよう努めている。その時々にも生じる様々なニーズ(個別の医療機関受診等)にも、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p><b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域密着型という位置付けにあり、行政及び福祉 委員・民生委員・老人クラブの方々との、定期的な 交流や、地域の学生や住民との直接的なふれあいの機会を設けている。また地域との関わりの中で、本人様にもご自身自体も地域の資源であると感じて頂けるように、心身の力を発揮しながら安全に心豊かな暮らしを楽しんで 頂けるよう努めている。</p>		
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>開設時からのかかりつけ医(内科)による定期的往診(週1回)、定期検査を受けながら、日々の健康管理を通じ状態の安定に努めている。日々の状態観察の中で、変化があれば医師だけではなく家族様にも報告し共有している。また、必要に応じ紹介状を書いて頂き、専門医療機関(内科以外)の受診を行っている。病床付医療機関とも提携し特変時にも対応できるよう努めている。心身の状態により本人様や家族様の意向に合わせ、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>家族と利用者の同意を得て、医療連携をしている医療機関より、週1回の定期的な訪問診療を受けています。入居以前からの医療機関の受診を希望する場合は家族が付き添います。場合によっては、往診を受けることもあります。また、日常的には非常勤のホームの看護師が、「個別の看護記録」・「体調不良者のバイタルチェック表」等、日々の健康管理を行い、職員に周知しています。提携医療機関とはオンコール体制を取っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の身体状況の把握により、気付いた点や気になる点等は、定期的訪問(週2回)時に、報告、相談し、指導を受けることで、早期対応(適切な受診や看護)と悪化防止に努めている。                      また、看護職からの職員への助言や指導は常に職員間で共有し、日々のケアに反映させている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者様の入院に際しては、当ホームサマリー(看護師作成)の提供をはじめ、入院期間中も面会による状況把握、病院関係者との情報交換に努めている。退院時は、主治医をはじめ必要に応じて理学療法士等の専門職からも、指示や助言を頂き、プラン(暫定)を作成し、退院後の日常生活上の留意事項の把握に努め、事前に必要な環境を整え本人様に安心して、退院して頂けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に意思変更可能である事も説明した上で、重度化・終末期に関する意向を伺っている。実際に重度化、終末期を迎えられる際にも医師、管理者、家族様(参加可能な常況であれば本人様含む)で今後の検討の話し合いの場を何度か設定し、最終的には、医師の見解と、家族様(本人様)の意向を確認した上で、全職員間で情報を共有し、看取り介護に取り組んでいる。また GH は看取りが可能とされながらも、医療的ニーズの充実には困難なこともあるため、連携医の助言に基づき、早期の段階より家族様への説明および了承を得ながら、必要に応じては他医療機関等への調整もおこなっている。</p>	<p>「看取りの指針」を作成しています。入居時には「重度化した場合における(看取り)指針」の書式を家族に説明し、「看取り介護についての了解覚書」に署名をもらいます。入居後の生活において実際に重度化、終末期を迎えた場合は、家族・主治医・看護師を交えて現状を把握・検討を行います。看取り介護の取り組みについて、「看取り介護についての同意書」に再度確認の署名を得ています。今年度看取りの事例は1件あります。終末期の利用者の居室には「交換ノート」を置き、医師・職員・家族が自由に実施したケアや利用者との会話・状態等を具体的に記入し、状況の共有を図ることで、家族に喜ばれました。急変により、看取りをした事例も2件あります。職員には緊急時対応の勉強会を定期的に行っています。AEDも設置しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>                      利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師による勉強会を定期的に行い、応急手当や緊急時対応のシュミレーション等の訓練、緊急時対応ガイドライン、緊急連絡網の整備、周知徹底を図っている。また、ホームにAEDを設置し、全職員の普通救命講習(AED)の受講を支援している。また、実際に急変や事故発生があった際には、事後にも検証を行う事で実践力を養うよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルを整備し全職員に通知し、避難経路の周知徹底を行っている。また、近隣周辺にも避難経路の説明や協力を依頼し、消防署の協力のもと近隣周辺へ通知した上、消防署合同・ホーム単独で、年に4回全入居者・職員で避難訓練を行い、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。避難訓練には、地域福祉委員、家族様にも参加して頂き、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。</p>	<p>非常災害時のマニュアルを作成しており、職員に周知しています。年2回消防署員の指導を受けた避難訓練を実施しています。運営推進会議で避難訓練の予定を参加者に伝え、地域福祉委員・地域住民・利用者家族にも訓練に参加してもらい、意見を伺っています。「2階からの避難誘導の困難」「玄関段差のスロープの装置の設置」等、意見を参考にしています。また、「小学校校庭へ直接避難できるように金網フェンスにくぐり戸を設置しては」の提案があり、今後の検討課題としています。今年度は避難訓練の年間予定を立てることで、福祉委員の方々の参加を得られやすいように工夫しました。ホームの自主訓練も年2回実施しています。非常災害時の緊急持ち出し袋や、非常時の食品・飲料水を準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りやプライバシー(排泄に関する声掛け、個人情報等含)を損なわない様に個々に応じた声掛けを行っている。また、勉強会においてもプライバシー保護を取り上げ、学ぶ機会を設けて意識を全職員間で共有し、日々のケアに活かせるよう努めている。	職員の全体会議でも、法人内の相談役からも尊敬語・謙譲語をきちんと使い分けられるように、敬語の使い方についてアドバイスを得ています。職員の言葉かけや態度は明るく、人生の先輩として利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、優しい雰囲気です。職員は入職時には守秘義務について誓約書を提出しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々の希望に添える様に、いくつかの選択肢を示す事で、自己決定して頂ける様働き掛けている。また、日常のさりげない会話やコミュニケーションを通じ、言葉による意思表示や、自己決定の困難な入居者様に対しても発語や動作、表情等を観察する事で意思を汲取れる様努め、家族様にも相談・確認しながら希望に添うように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の状態、ニーズ等を把握した上で、希望に添うよう努めている。居室で過ごされたり、フロアで他者様と過ごされたり、それぞれ個人のペースを、生活リズムや安全面にも配慮を行いながら支援している。また、ご自身で一日の予定表を作成して頂くなど、「そのひとらしく」を一緒に考え、希望に添うよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容をはじめ、月に1度は美容師に来て頂き、希望に応じた髪型にされたり、整容品等も個人の嗜好に合った物を使って頂いている。ご自身でされる方には自身で頂き、支援が必要な方には選択しを提示し自己決定して頂けるよう支援に努めている。服装も場面に応じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、食事の際の食べこぼしにも配慮しながら清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、買い物、調理、盛り付け、後片付け、配膳、下膳等を各入居者様のできる範囲で共に行っている。食べる事だけではなく準備の段階から、会話や自身ができる事への実感等を楽しんで頂ける様な雰囲気作りも含めて取り組んでいる。また、外食・出前にて好きなメニューを選んで頂いたり、誕生日会ではメニューを入居者様に考えて頂き、目の前で共に調理したり、ケーキ作りを行う等、食への楽しみを感じて頂けるように取り組んでいる。	食材は業者より購入しています。食材提供業者の管理栄養士が、毎食のカロリーを記した調理メニューを提供しています。食事の前には嚥下を促進するように発声練習をしています。職員が三食とも調理しています。食材の下拵え、盛り付け、後片づけなど、利用者がそれぞれ関われることは共に行います。職員は利用者と共に同じテーブルに付き、介助の必要な方にはさり気なくサポートし、談笑しながら同じ物を食べています。味噌汁の具材のサツマイモから、戦後の食糧難時代の話に発展することもあります。お誕生日会では、その誕生月の利用者に好みのメニューを選択してもらっています。食材の購入や皆で調理をして楽しみます。お誕生日ケーキも皆で手作りします。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社よりカロリー計算されたメニューを、ホーム内で調理し個々の食事形態に合わせて提供している。定期の体重測定で体重の減少等が見られる際は、補食の提供等で追加栄養摂取して頂き、必要栄養分量の確保に努めている。また、血糖値に注意が必要な方には、主治医・看護師の助言を踏まえた食事提供をおこない、状態の安定に努めている。水分補給に関しては、いつでも自由に飲んで頂ける様お声掛けし、摂取量を記録、15:00 時点で中間計算し、1日最低でも1,000ccは摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じたお声掛け・見守りを行いながら、自己にて困難な部分を介助させて頂き口腔ケアを行っている。個々人の口腔状態の把握に努め、週1回の歯科医師による往診時には、歯科医による口腔ケア・治療を受けられ、歯科医の意見も反映させた口腔ケアの実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握した上で、排泄のお声掛け・誘導を行っている。また、失禁の軽減が図れる様、お声掛けの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。お声掛け・誘導を継続しながらも失禁増加による本人様の落ち込みや混乱等が著しい場合は、パットやRパンの使用を検討し、本人様の心身の負担軽減を図っている。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄習慣や排泄パターンを把握し、個別支援を行っています。プライバシーを尊重しながら、さり気なく自立に向けた支援ができるよう職員間で共有しています。日中は基本的に利用者全員トイレで排泄できるよう支援し、退院時リハビリパンツの方が布パンツとパッドに改善した例があります。排便に関しては業務日誌にも排便がなければ特記し、個人別に1ヵ月間の排便チェックシートに記録し、職員・看護師は共有しています。個別の介護記録には排泄表と共に水分摂取量も把握できるようにして、バランスに注目しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の増量、乳酸製品・寒天等の食品摂取、腹部マッサージ、腹部用湯たんぽの使用や体操等を行い、便座に座われた際にいきみのお声掛けや腹部マッサージ、ウォシュレットにて刺激する等、自力での排泄と便秘予防に努めている。また、排便時の量や形状等を観察・記録し主治医・看護師に相談・助言を頂いている。それでも排便が見られない時は、医師による下剤の調整や看護師による、浣腸・摘便等に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>十分に見守り出来る安全な環境で入浴して頂くため、週3日(2日に1度)の入浴を基本に、個々に入浴を楽しんで頂けるよう時間帯や入浴の順番、温度等は本人様の体調を考慮した上で希望に添えるように調整している。また入浴剤やシャンプー・ソープ類、洗身タオル等は個々人の好みの物を使用して頂いたり、季節湯(ゆず湯)等で楽しんで頂くなどしている。</p>	<p>利用者本位を優先しているホームは入浴時間についても、利用者の希望を柔軟に受け入れ、個々に入浴を楽しめるよう配慮しています。基本的には週3回は入浴できるよう支援しています。個浴槽に対応できるリフト装置を設置して、二人介助が必要な利用者も、浴槽に浸かってもらえる工夫をしています。入浴を好まれない利用者には、無理強いせず、本人の意向に添って、声かけに工夫をして入浴してもらえるよう、職員は声かけについて成功した事例を共有しています。入浴剤の使用や季節湯(菖蒲湯・柚子湯)も楽しんでもらいます。</p>	
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の体調や、ニーズは毎日変化するので、体調管理を重視しながら、ソファや座イス等も利用し出来るだけ本人様の希望に添える様に休息して頂けるよう支援している。また、心地よい睡眠を取って頂けるよう環境整備(寝具、室温、湿度、空調、調光、保温等)や臥床姿勢(クッション等使用)に配慮し、気持ちの昂りで眠れない時等は、隣に寄り添い安心して眠って頂けるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p><b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の薬情については全職員が把握し、薬の変更・増減に関する把握もカードックスや申し送りを通し周知徹底するよう努めている。服薬介助の際には、ミスが無いよう二重のチェック態勢での服薬支援に努めている。また、服薬後の観察を怠らず、職員間で情報共有し、医師・看護師に報告している。また、薬剤師による勉強会を設け、薬(効果、効能、注意点等)への理解を深めるよう取り組んでいる。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様個々の習慣や、生活歴を本人様・家族様等から情報を頂き、それらを活かした役割等を職員側から入居者様へ提案する形で、入居者様の意思を尊重し入居後も継続して頂けるよう支援している。個々の果たす役割が、個々人の喜びや、張合い、生きがいへと繋がるように取り組んでいる。また、喫煙や買い物、外出、出前、外食、ホーム内レクリエーション(行事含)等においても、希望を反映出来る様に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の個々の身体的な状態や天候等に配慮し、いくつかのグループに分けて本人様の希望に沿って、外出(散歩や買い物)して頂けるよう支援している。また、家族様の協力の下、選挙や墓参り、一時帰宅や外泊等の支援を行っている。外出行事の際には、入居者様の希望を行き先等に反映させるようにしている。	近隣の散歩は日常的に実施しています。利用者に外出支援ができているかを職員が把握し、共有できるように、月別に「外出(散歩・買い物等)チェックシート」の書式を考案し、毎日の活動記録から転記しています。職員は利用者個々の身体的状態や、天候等に配慮しながら、個別や小グループに分けて、外出するように支援しています。行事としての外出は家族や地域の福祉委員、介護相談員の方々の協力を得て、多くの利用者が一緒に外出できる機会も設けています。初詣・お花見・盆踊り・小学校の運動会の応援・敬老会等を実施しています。また、家族と共に自宅への一時帰宅・お墓参り・選挙の投票・泊りがけの旅に出かけることもあります。行事の際には、利用者の希望する行き先等に反映しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の自己管理に関しては、難しい事が多いので、多数の入居者様はホーム側で預かせて頂いているが、中には家族様の了解の下、少額の金銭を自己にて管理して頂く等個人に合わせた支援を行っている。また、外出時の買い物での精算の際には、本人様にお支払いして頂ける様に支援を行っている。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様の希望があれば、自由に電話や手紙の遣り取りをして頂けるよう、お声掛けを行っている。また、毎年家族様への年賀状も出来る範囲で本人様直筆のものを郵送している。レクリエーション等で作成したものに、本人様から家族様へのメッセージを記入したものを月に一度、ころあひ便りと一緒に送付している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にて不安や混乱無く、くつろいで過ごして頂けるよう安全を配慮した上で、共用空間の壁に季節に応じた装飾や、各入居者様の思い出の写真を貼る等、和めるような雰囲気作りを心掛けている。また、食卓にも季節の花を飾る等、ホーム内でも季節を感じて頂けるよう心掛けている。共用空間の環境整備(室温、湿度、空調、調光、換気、音、等)にも配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	1戸建ての民家を改築して、グループホームを開設したホームであり、玄関入口の佇まいは、住み慣れた自宅に帰るような雰囲気になっています。開設当初のユニットは、浴室やトイレも馴染みのある自宅のような感覚で利用してもらっています。裏庭には庭履きに履き替え、気軽に下り立つことができ、利用者が選んで買って来たお気に入りの草花を植えたり、夏野菜やサツマイモの苗を植え、散歩に出かけなくても水遣りしながら、外気浴ができます。フェンスを隔てて、小学校の校庭が間近に臨めて、フェンス越しに児童との交流が生まれます。ダイニング兼リビングでは食事の支度を眺めながら、食卓でカレンダー作りや写経・計算ドリル等を楽しむことができます。廊下のスペースにはゆっくり寛げるソファを設置してあります。リビング壁面には行事の時の写真や小学校児童の絵等を掲示してあり、温かみを感じるホームです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓の椅子の他にも何箇所かにソファを配置し、フローア隣接の和室等、入居者様個々人が好きな場所で、入居者様同士の会話を楽しまれながら過ごされる等、思い思いにリラックスして頂ける空間づくりを心掛けている。また、入居者様同士の相性にも配慮し、個々人が思い思いに過ごして頂ける空間づくりを心掛けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室は、入居者様のご自宅で使用されていた愛着のある家具等を持ち込んで頂く事で、以前の生活との変化を最小限におさえ、家具の配置も安全を配慮した上で、本人様が混乱されない様配慮している。また、家族写真や思い出の物を飾る等し、本人様が居心地良く安心して過ごせる空間づくりを心掛けている。</p>	<p>居室には利用者が自宅で使い慣れたベッド・寝具・タンス・ドレッサー・絨毯等を持ち込んでもらい、家族の写真やお気に入りの人形やぬいぐるみ・好みの小物等を飾っています。住み慣れた生活空間の継続を保てるよう配慮しています。敬老の日やお誕生日のお祝いとして、職員が手作りした色紙を壁面に掲示しています。個人的に購読している新聞も置いてあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の介護計画を基に、生活意欲の向上に繋がる様なお声掛けや役割を共有し、「その人らしい」を念頭に、入居者様の目線に合わせて、トイレや居室の場所を掲示する等、認識の混乱削減に努め、出来るだけ自己能力を活用して頂けるよう支援している。また、安全面においても危機管理委員会を通し、安全な導線の確保と事故防止に努め全職員で安全かつ自立支援に繋がる様な環境作りに取り組んでいる。</p>		